

【ポスター発表】

自閉スペクトラム症児の兄弟姉妹の有無と母親の心理的適応

ーテキストマイニングによる分析ー

○ 小田原短期大学 太田 雅代 (会員番号 010146)

キーワード：自閉スペクトラム症児、兄弟姉妹、テキストマイニング

1. 研究目的

自閉スペクトラム症とは社会的コミュニケーションにおける困難と、反復常同的な様式を特徴とする神経発達障害の一種である。自閉スペクトラム症児の育児は家族とりわけ母親に大きな影響を与える。母親の心理的適応に関連する要因を明らかにすることは、母親への支援を行う上で重要である。本研究の目的は、自閉スペクトラム症児の兄弟姉妹の有無という要因に着目して、これが母親の心理的適応とどのように関わっているのかを明らかにすることである。

2. 研究の視点および方法

自閉スペクトラム症児をもつ母親に半構造化面接を実施して、育児について語ってもらった。得られたデータの分析にはテキストマイニングを用いた。テキストマイニングとは文字列を対象としたデータマイニングのことであり、文字列を形態素に分解して頻出語の特定、語と語の共起関係、語の出現傾向などを多変量解析によって明らかにして有用な情報を引き出すという、テキスト分析の一手法である。従来、インタビュー内容を書き起こしたテキストデータは質的に分析されることが多かったが、テキストマイニングを用いれば、客観性と再現性をそなえた分析を短時間で行うことができる。なお本研究で使用したテキストマイニングツールはKHcoderである。

対象者：自閉スペクトラム症児をもつ母親 19 名。内訳は、子どもが 1 人の母親 6 名、子どもが複数いる母親 13 名。母親の年齢は 40 代から 50 代、子どもの年齢：は 1 歳から 25 歳（平均 17.4 歳）。

ガイド項目：面接は、次のガイド項目に基づいて実施した。「お子さんが生まれてから今までのことを教えて下さい。これまでの育児を振り返り、1つの物語になるように、順を追って話して下さい」。語りの間、面接者はなるべく質問を避け、母親が自由に語れるよう配慮した。

実施時期：2013 年 2 月から 7 月

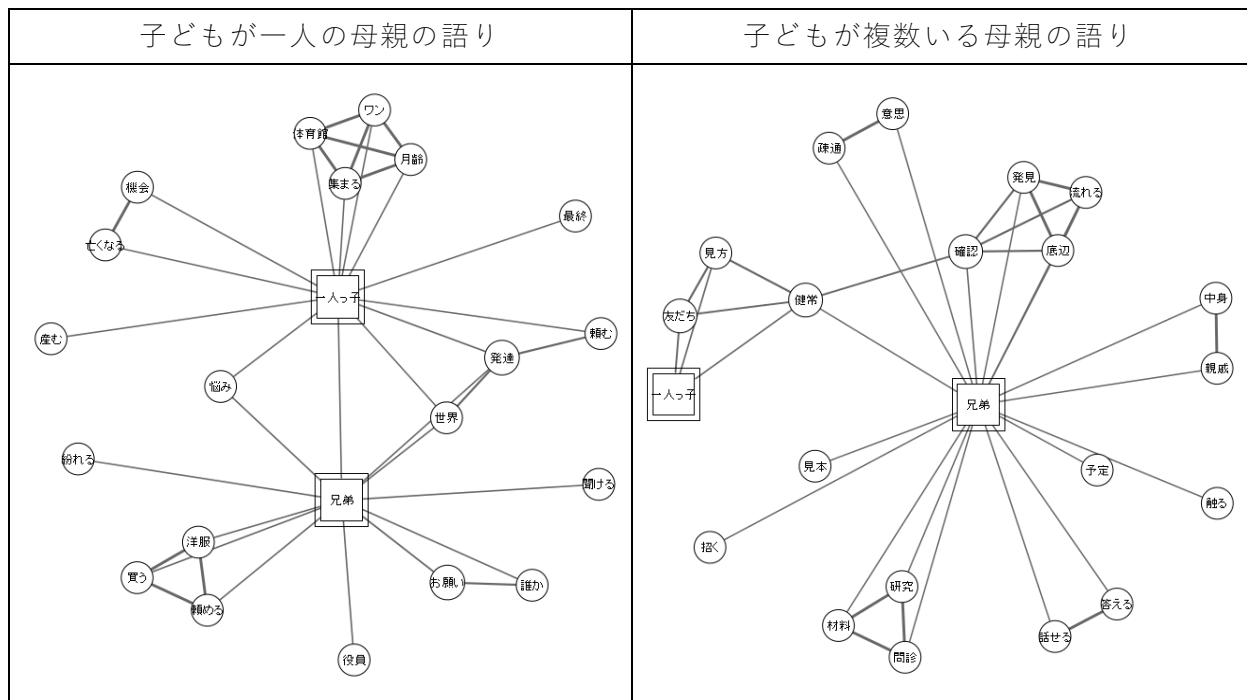
面接所要時間は約 70 分から 120 分であり、対象者の許可を得て録音した。

3. 倫理的配慮

この調査は慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科の研究倫理審査委員会による承認を得て実施した。

4. 研究結果

分析は、子どもが一人の母親と、子どもが複数いる母親に分けて行った。まず、得られたデータを形態素に分解した。次に、Jaccardの類似性測度を算出して頻出語を特定した。さらに、「一人っ子」「兄弟姉妹」を意味する類義語を拾い上げるためのコーディングルールを作成した。最後に、コーディングルールで抽出された頻出語と共に起る語の共起ネットワークを描画した。その結果を下に示す。



5. 考察

子どもが1人の母親の場合には、親亡き後のわが子の生活への不安や心配が大きな関心事となっていることがわかり、この点は子どもが1人である家庭への支援を考える上で、重要な点であると考えられた。また発達の遅れや障害そのものに気付くのが遅れることがある場合もあり、母親はその理由として、兄弟姉妹児という最も身近な比較対象がないためだと考える傾向があった。

一方、子どもが複数いる母親は、自閉症児の育児という通常の育児のノウハウが通用しない困難に直面しながらも、健常児の育児も経験したおかげで視野が広がったり、自閉症児に対しても兄弟姉妹児との性格の類似点を見出してそれを楽しむなど、自閉症児の育児をいわば相対化させる視点を獲得していることが明らかになった。

(演題発表に関連し、開示すべき COI (利益相反) 関係にある企業等はありません。)